

※令和6年3月22日時点

※本資料では主に令和5年度進展した取組を中心に掲載

1. 中部山岳国立公園と乗鞍高原

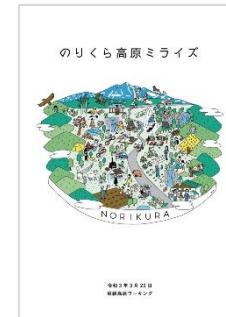
中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳の国立公園。

令和6年12月4日に指定90周年を迎える。

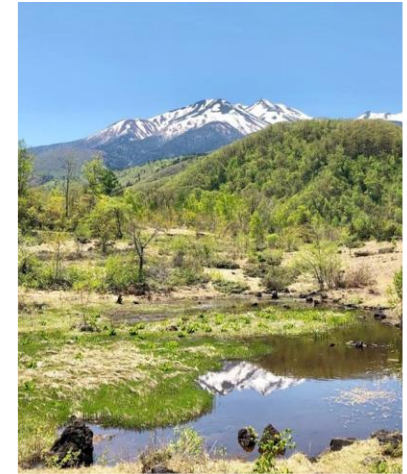
乗鞍高原は、公園南部に位置する標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とする乗鞍岳の東麓（標高1,200～1,800m）に広がる高原地帯

令和3年3月22日、地域関係者協働により**地域づくりビジョン**である「**のりくら高原ミライズ**」*を策定。ゼロカーボンの推進を重要取組事項として定め、その将来性などが認められたことから、令和3年3月23日に日本初のゼロカーボンパークに登録。

*併せてのりくら高原ミライズ構想協議会を設置し、取組事項について進捗管理



のりくら高原ミライズ表紙



一の瀬から望む乗鞍岳

令和4年4月26日には「のりくら高原『ゼロカーボンパーク』の具現化」として**脱炭素先行地域**にも選定され、多様な取組が地域一体となって実施されている状況。

2. 地域の脱炭素化に向けた議論

令和4年9月より（一社）松本市アルプス山岳郷が主催となり「**乗鞍ゼロラボ**（乗鞍高原においてゼロカーボンを学び、実験と実践を共有するコミュニティ型ラボ）」を開催。令和5年度は**再生可能エネルギーや伝承食等の6つのプロジェクトによる活動を実施**。また8月と10月に講義+ワークショップ形式のカリキュラムを開催し、域内外より意欲ある参加者が集い**各分野の前線で活躍する講師とともに積極的に議論**。



講師の方をお呼びしてワークショップの開催

2.地域の脱炭素化に向けた議論

・ **脱炭素先行地域**の目標「**ゼロカーボンパークの具現化**」の達成に向け、以下（全体の一部）の取組を実施。

✓ **地域裨益型の小水力発電施設**の整備に向け、地域住民が参画するのりくら高原ミライズ構想協議会の「小水力発電」プロジェクトチームで、計画内容に関する協議等を実施。また、発電施設の整備・運用を担う特別目的会社として「のりくら小水力発電合同会社」が設立され、基本設計、流量解析、詳細測量等を実施した。

✓ 松本市では、案内・誘導・交通拠点等の観光拠点である**松本市乗鞍観光センター**を整備するにあたり、ZEB化や太陽光発電設置など乗鞍地域の脱炭素化を率先的に進める要素も盛り込んで整備をするため、令和4年度から令和5年度にかけて基本計画・基本構想を策定した。
また、令和5年度は、民間ノウハウの活用につながるPPP/PFI手法の導入を検討した。

✓ 令和4年度に行った一の瀬エリアの再整備の実施設計をもとに、環境省直轄整備事業として座望庵周辺のデッキ工事に着手したほか、老朽化した既存トイレに変わる新しいトイレの着工に向けた準備を行った。新トイレは令和6年度中の完成を目指す。

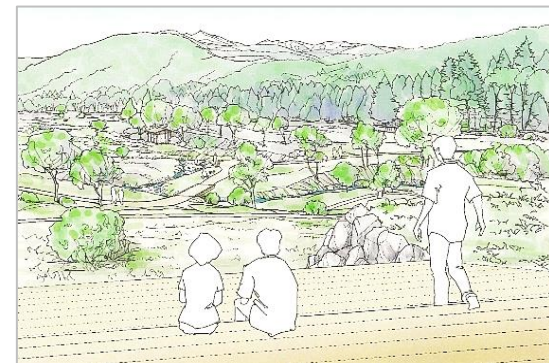
また、地元ののりくら観光協会、大野川区により座望庵の改修工事を実施。



整備を予定している小大野川



改修工事後の座望庵



一の瀬整備デッキからのパノラマイメージ

3.脱炭素の取組の実践

・脱炭素設備導入のための補助事業の実施

松本市による「**乗鞍地域温暖化対策設備設置補助事業**」として、乗鞍高原地域の一般家庭や宿泊業者の電力消費に伴う二酸化炭素の排出量実質ゼロを実現するため、再エネ、省エネ設備の導入等について、国の交付金を活用し、対象経費の2/3補助を実施。

効果的・効率的な設備導入につなげるため、地域住民向けの全体説明会に加え、地域内の20軒の家庭・施設において、専門家が現地調査を行い、設備導入に向けた助言を実施。

ゼロカーボン設備の中長期的なさらなる普及に繋げていくため、経営状況や個別課題（事業承継等）に寄り添った経営支援を実施。

・のりくら高原ミライズ構想協議会のゼロカーボン分科会により、「木の駅プロジェクト」として、木質バイオマス燃料として利用できるよう修景伐採等で発生した地域材を保管し活用方法を検討。

・環境配慮型の二次交通システムの構築に向けた取組
 ✓ のりくら観光協会により、観光センターでEバイクの貸出しを実施。
 ✓ 関係事業者により、リニューアブルディーゼルを燃料としたバスの実証実験を実施。

・マイボトル持参で割引や給水スポットsweeの設置を継続し、旅行者に地域の脱プラを体験してもらおうきっかけを創出。

導入設備	令和5年度件数	
	宿泊施設	2軒
太陽光発電施設	宿泊施設	2軒
蓄電池	宿泊施設等	1軒
木質バイオマ（薪・ペレット）ストーブ	一般家庭	2軒
	宿泊施設等	5軒
既存住宅断熱改修	一般家庭	1軒
高効率空調設備	宿泊施設	4軒
高効率給湯器	一般家庭	2軒
	宿泊施設等	5軒
太陽熱設備	一般家庭、宿等	1軒
合計		延べ23軒



園路周辺の支障木など



「木の駅」事業として各家庭・宿の燃料等として供給をめざす

4. その他乗鞍高原での取組

・トレイル整備

乗鞍高原の美しい自然を、ハイキングやMTBで体験できる「**NORIKURA KOGEN TRAILS**」では、トレイル整備のための協力金の仕組みも継続して実施。令和5年度に集めた協力金は、登山道整備やトレイルマップの作成などに活用し、保護と利用の好循環を目指す。また、生態系への影響に配慮した近自然工法の地域への定着に向けて、整備イベントを3回開催した。



トレイルの入り口：トレイルヘッド

・外来種対策

乗鞍高原に入り込んでしまった外来種（オオハンゴウソウ、ハルザキヤマガラシ、フランスギク等）の除去活動を実施。令和5年度は、のりくら高原ミライズ外来種対策チームによる駆除イベント（計5回）の開催および、地区ごとの駆除会（計8回）等を開催。また、外来種の種類及び分布状況について、ヒアリング調査及び現地調査を継続して実施。



駆除イベントの様子（6月25日）

・一の瀬の修景伐採

かつて放牧が行われ草原が広がっていた一の瀬エリアにおいて、令和3年に策定した「草原再生の手引き」を指針として、環境省、松本市及び地元町会の協力により、令和3年度からシラカバの幼木等の伐採や刈払いを実施した。令和5年度までの3年間で、計画区域約20ヘクタールの刈払いを終了し、見晴らしの良い草原景観の回復を目指した。来年度からは引続きゾーニング計画に基づいた刈払いを行い草原を維持していくとともに、実態に合わせて計画の見直し等を行う予定。

